

愛知女短大

阪本弘子

名古屋市立女短大

○佐野恂子

岐阜女短大

山田令子

目的 前回は運針動作を撮影し、各測定点の変位を読み取り、動作を曲線グラフに再現した。その中から1針分に相当する波形を抽出し、運針時の基本動作について解明したが、運針条件・測定点によって、形態・仕事量に差がみられた。

今回はそのグラフの曲線全体を解析して、被検者の一連の運針動作を数値としてとらえた。そして運針条件・測定点別による動作の特徴を明らかにし、他の被検者との比較にも適用できる一つの基準を定めることを目的とする。

方法 動作曲線を波形の数によって、始め・途中・終りの3段階に分割した。その段階別に、曲線を構成する数値を、マイクロ・コンピュータにより、フーリエ解析を行なって、曲線の周期性を分析した。

結果 運針動作を周期性という観点からみた時、次のようなことが分析された。

1. 左右別・測定点別……運針条件別と、始め・途中・終りの段階別によって、それぞれ特徴のある周期性が認められた。
2. 運針条件別……つかみ間隔15cmの始めは、周期性が不安定であるが、途中では安定した周期性があり、一定のリズムがみられた。
3. 以上の観点から、つかみ間隔が数値的に定まる。